

命と権利のため立ち上がる

世界中で女性の権利における進歩がわれわれの目の前から消え去りつつある。最新の予測では、完全なジェンダー平等を達成するには現在のペースで300年かかると推定される。ウクライナ侵攻から気候の非常事態まで、今日相次いでいる危機は真つ先に、そして最悪の形で女性や女兒に影響を与えている。

二つの数字が、われわれの失敗を明確に示している。10分ごとに1人の女性か女兒が、家族または身近なパートナーによって殺されている。そして2分ごとに1人の女性が妊娠中や出産時に亡くなっている。そのほとんどは確実に避けることができたケースである。

3月8日の国際女性デーに当たり、われわれは状況を改善させると約束しなければならぬ。この恐ろしい傾向を反転させ、あらゆる場所で女性や女兒の命と権利のために

きょう国際女性デー

特別寄稿 グテレス国連事務総長



アントニオ・グテレス 1949年、ポルトガルの首都リスボン生まれ。リスボン工科大卒。95～2002年首相。05～15年、国連難民高等弁務官。17年1月、第9代国連事務総長に就任し、22年1月から2期目。

科学技術分野の格差解消を

的に見て、インターネットに接続できる男性は女性より21%多い。低所得国では50%以上に広がる。

最も豊かな国々でさえ、ジェンダーに基づく固定観念や歴史的偏見により（男女格差

の決定の土台となっている。しかし、ジェンダーの違いを無視したり、女性全体を置き去りにしたりして決定してしまふことが少なくない。

1901年以降、ノーベル賞の科学部門で女性の受賞者はわずか3%に過ぎない。科学者やジャーナリストを含め、女性はネット上でしばしば、彼女たちを黙らせ、辱めようとする性的なヘイトスピーチや虐待の標的となっている。

ジェンダーの不平等を織り込み、家長制や女性蔑視を

女性にとって安全なデジタル環境をつくるための行動も必要だ。ネット上で（彼女らを）虐待している者や、それを許しているプラットフォーム運営者の責任を、共に追及しなければならない。

立ち上がる必要がある。これが私の核となる優先事項の一つであり、世界中で国連の仕事の中心的な政策だ。

今年、国際女性デーは科学、技術、技術革新におけるジェンダー格差を埋めること

デジタル化させた製品やサービスを警戒すべきだ。（ハイテク業界という）シリコンバレーが女性の権利のデスバレー（死の谷）になってはならない。

決定権者は採用の幅を広げ、技能によって雇用し、独創的であるべきだ。ジェンダー平等は自然に実現するわけではない。それを優先し、追求しなくてはならない。国連は、こうしたやり方によって

学、技術、技術革新におけるジェンダー格差を埋めること

大量の情報を集めた「ビッグデータ」は新たな金脈であり、今日の政治やビジネス上

男性の体を基準にした医療判断は女性に害を与えるだけ

成果を上げてきた。われわれには職員のジェンダー平等を実現するための戦略がある。